

が有るのを、ちつとも早う戴かして、極樂往生をさせて遣らにやならぬ。それを取りに戻りましたのちや。南無阿彌陀佛く。」

「お父つあん何處へ行きなはる。」

「お佛壇の抽出しへ入れといたお姿をとりに行くのちや。」

「え、ッ、佛壇ツ。あかんく、そんな物佛壇にあれしまへん」

「無い事が有るかい、俺しがチャンと入れといたのちや。」

「それが入れ處が替つたんだす。」

「誰が替へたんぢや。大體そんなら何處にあると云ひなさる。」

「へエ、あの……下駄箱の中……。」

「阿呆云を……南無阿彌陀佛く、左様ぢや、此のお佛壇の抽出しへお入れ申しといた……。」

ギ。と扉を開けますと、菊江さんの白い帷子姿がヌー。

「お、お花。迷ふたか。やれ無理はないく。死んだ身にも女のたしなみ。髪も結び上げ化粧までして来たか、いちらしい。伴の了見はキツと俺しが意見をして入れ替へて見せる。どうぞ迷はずに成佛しとおくれ。」

「へ、妾いも消え度うムります。」

『上方はなし』を聴く會

樂語莊同人

毎月一回、高麗橋の三越八階ホールに於いて、小莊主催で純上方はなしを聴いて頂く會を開きます、從來誤まれたる營業政策の犠牲に成つて心ならずも引き歪めた噺や、尻切蜻蛉の様な落語ばかりを演つて居た私共が、茲に凡ゆる桔槔から脱して、自由と思ふ儘の『はなし』を演らせて頂くと云ふのが主眼でございます、誠にお耻しい様な未熟者の集合なので、決して御満足を與えるなど、申す事は出来ませんが、尠くとも從來より良心的な演藝を以てお目見得する事だけは、慥に出来るかと存じます。何卒御後援の意味で御來會を給り度く偏にお願ひ申し上げます。

本月は十七日(土曜日)午後正一時からであります。

會員制になつて居りますから、此頁の裏面に印刷してある會員券を切取て當日會場入口でお示しを願ひます。